

第71号

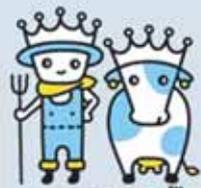
酪農とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 平成24年 乳代集計結果について
- 3 ページ 酪農とちぎ乳牛A B Lについて
- 4 ページ 農業士認定、第23回栃木県B & Wショウ
- 5 ページ 東西南北
- 6 ~ 9 ページ 部課だより
- 10 ページ お知らせ、理事会だより、市場成績



www.milkjapan.net



MILK JAPAN

牛乳が日本を
元気にする。



平成24年乳代集計結果について

生乳生産実績

平成24年1～12月の生乳生産量は21万197tで、平成21年以来の21万t超えとなりました。

日量の推移(図1)を見ますと、平成23年は3・11東日本大震災により4月の日量はダメージを受けていることが分かります。余震・

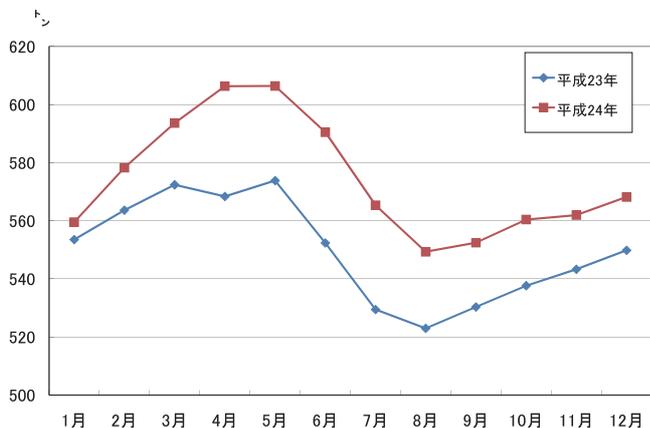


図1 日量の推移

表1 出荷戸数

(戸)

	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
那須高原支所	370	353	338	331	325
宇都宮支所	104	103	99	93	93
県南支所	119	114	109	105	103
合計	593	570	546	529	521
前年比		96.1%	95.8%	96.9%	98.5%

表2 一頭当り乳量

(kg)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
那須高原支所	8,164.0	8,378.5	8,195.8	8,126.1	8,305.1
宇都宮支所	8,471.8	8,687.6	8,528.9	8,309.7	8,708.3
県南支所	8,250.2	8,411.8	8,171.8	7,988.8	8,327.1
平均	8,232.4	8,433.1	8,241.8	8,115.6	8,367.6

放射性物質等の不安が拭えぬ状況にある中、更に酷暑に見舞われ思うように乳量が伸びませんでした。平成24年は復興対策事業などがあり、急激な乳量の回復がありました。

した。夏期は猛暑に加え、残暑が厳しくなかなか涼しくならなかったことから、8月からの乳量の増量が昨年程ではありませんでした。しかし結果としては、前年対比で関東随一の成績となりました。

ここ5年の出荷戸数を表1に示しました。毎年減少してはいますが、あれだけの震災があったにも関わらず、減少戸数に歯止めがかかりつつあります。表2は動態調査を基に計算した経産牛一頭当り乳量の推移です。過去のデータを見返すと、平成14年の約7600kgから平成21年までは右肩上がりでしたが、ここ最近では8300kg前後で推移しています。技術の向上と猛暑による影響が平衡状態にあるかと推測しております。

乳価

図2は支払乳価(手数料を差引きし、乳質加算する前の税抜単価)です。3月、8月、12月に乳価が下がるのは、学乳の影響により加工率が上がるからです、昨年

3月が高いのは震災対応のとも補償で、乳質加算無し税抜一律90円で処理した為です。その後牛乳乳製品は品薄となり、加工率が下がったこともあり平成23年は高めの乳価で推移しました。グラフからは9月頃から需給が戻ったように読み取れます。

図3は乳質加算単価を加重平均で求めたものの推移を示したものです。前述の通り震災の影響で平

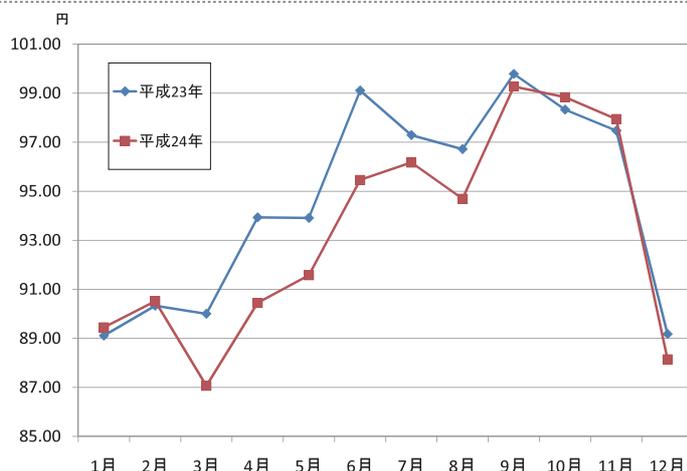


図2 支払乳価



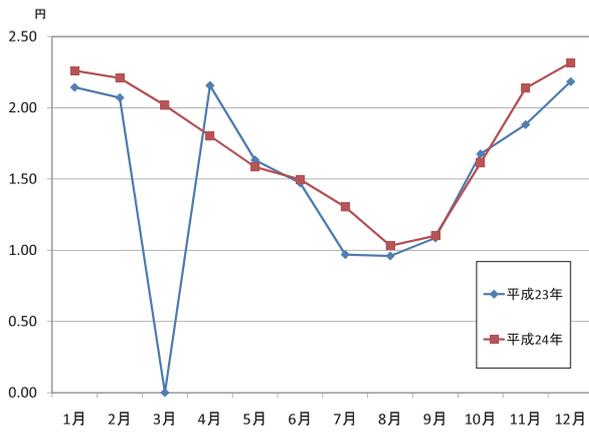
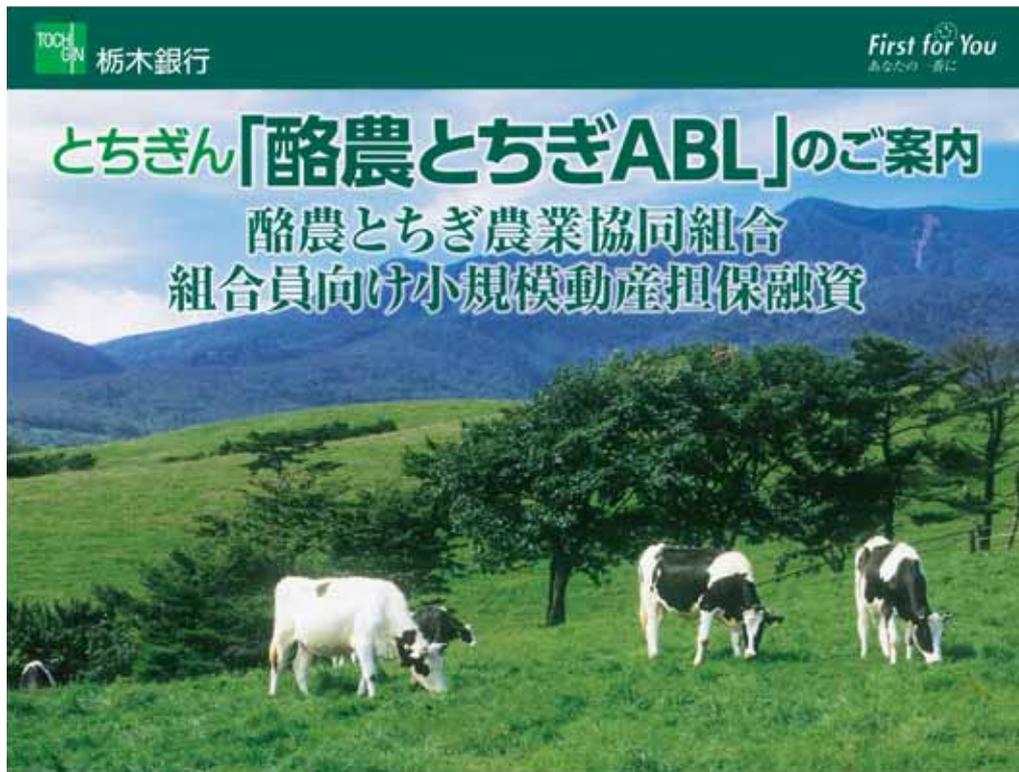


図3 乳質格差加算加重平均

成23年3月は、乳質加算は0円と なっています。気温などの影響で 前年と今年とでは増減があります が、1年間の中で1円を超える変 動をしています。現在の組合プー ル乳価の計算方法は、乳質加算を 先に計算して先取りし、残りの金 額をプーリングする形です。少しでも 良い乳質により単価を上げること、 逆にミスなどから細菌・細胞数に より単価を下げないようにするこ とが所得を増やす鍵を握っている かもしれません。



乳牛を担保とした

新たな融資制度のご案内

この度、組合では栃木銀行との 業務協定に基づいて、酪農とちぎ 組合員向けの小規模動産担保融資

制度を新設いたしました。 本制度は、乳牛を担保に融資を 受けるもので、乳牛導入資金や運

転資金の調達手段の一助として組 合資金や近代化資金を補完する新 たな融資制度として活用が期待さ れるものです。 融資制度の取扱いについては栃 木銀行の支店が窓口となります。 お問い合わせは、支所または最 寄りの栃木銀行各支店まで。

酪農とちぎABL (Asset Based Lending)は 乳牛を担保としてご融資する新しい融資手法です。 乳牛導入資金、飼料購入資金に関するご相談にお応えします。

- ご利用いただける方 酪農とちぎ農業協同組合に加入していて、同組合に生乳を出荷している法人、個人の方で当行所定の条件に該当する方
- お使いみち 酪農経営に必要な資金(設備資金・運転資金)
- 融資金額 設備資金・運転資金合わせて最大2,000万円
設備資金1,500万円
※ただし、とちぎん農業従事者ローンご利用額と合算し1出荷組合員3,000万円以内
運転資金500万円
※ただし、とちぎん農業従事者ローンご利用額と合算し1出荷組合員1,500万円以内
- 融資利率 当行所定の固定金利
- 融資期間 設備資金6年以内(据置期間1年以内) 運転資金3年(据置期間なし)
- 融資形態 証書貸付(元金均等返済)
- 担保 農場内で飼養する乳牛一切を担保とします(集合担保扱い)
- 保証人 法人は代表者 個人の方は酪農経営に携わる専従者
- 取扱手数料 融資金額の0.42%(税込)
- その他 お申し込みの際には、所定の書類をご提出いただけます。

【平成20年3月1日現在】

*商品の内容は予告なく変更する場合がございます。審査の結果、ご希望に添いかわる場合もございますので、あらかじめご了承ください。

お使いみち、各種内容などにつきましては、お近くの支店窓口までお問い合わせください。

FD0162013.001



農業士認定

平成24年度の県農業士などの認定式が1月9日県公館で行われ、農業士9名、女性農業士3名、名誉農業士13名が新たに認定され、福田富一知事より激励の言葉を頂きながら一人一人に認定証書が授与されました。

本組合より市貝町の大滝信夫さんが農業士に、那須塩原市の小針勇さん、益子町の岩渕至正さんが名誉農業士にそれぞれ認定されました。



大瀧 信夫・博子ご夫妻

今後とも地域農業の発展振興、等ご活躍を期待し、お祝い申し上げます。



岩渕 至正・英子ご夫妻



小針 勇・カツ子ご夫妻

第43回 栃木県ブラックアンドホワイトショウ入賞牛一覧

開催期日：平成25年3月17日(日) 審査員：田中 健一氏(家畜改良事業団前橋種雄牛センター東海近畿事業所)
開催場所：那須塩原市「塩原堆肥センター」出品頭数：86頭

入賞	出品番号	名 号	出 品 者	
			住 所	氏 名
GC	1011	パインツリー クリスマス サード ロイ ET	那須烏山市小倉	P-THREE
RGC	803	リージエント ミス ロザベル	那須塩原市関谷	和田 泰
SC	1011	パインツリー クリスマス サード ロイ ET	那須烏山市小倉	P-THREE
RSC	907	ハーネスファーム ロスチーフ リリス	那須塩原市臺沼	高 塩 浩 典
IMC	803	リージエント ミス ロザベル	那須塩原市関谷	和田 泰
RIMC	604	ハイロード ジヤスパー エストリーゼ	日光市小林	植 木 靖 典
JC	403	ハーネスファーム ダンディー スター ルル	那須塩原市臺沼	高 塩 浩 典
RJC	203	リージエント ゴールド リバティ コラ ET	那須塩原市関谷	和田 泰

GC：グランドチャンピオン RGC：リザーブグランドチャンピオン SC：シニアチャンピオン
RSC：リザーブシニアチャンピオン IMC：インターミディエイトチャンピオン
RIMC：リザーブインターミディエイトチャンピオン JC：ジュニアチャンピオン RJC：リザーブジュニアチャンピオン

牧場牛群	1	高塩 浩典	那須塩原市臺沼
	2	永森 洋一	那須塩原市埼玉

地区対抗	1	塩原・西那須野地区
	2	那須烏山地区

ベストリードマン 中田 千晴 さん 真岡北陵高等学校生物生産科 3年生

優等賞 一席	部	名 号	住 所	氏 名
"	1部	プラントツリー ABEO ローソリティー	日光市小林	植 木 靖 典
	2部	リージエント ゴールド リバティ コラ ET	那須塩原市関谷	和田 泰
	3部	ホクリヨウ ローリングストーン	真岡市下籠谷	真岡北陵高等学校
	4部	ハーネスファーム ダンディー スター ルル	那須塩原市臺沼	高 塩 浩 典
	5部	レディスマナー RD プリン ET	那須塩原市青木	見 山 貴 生
	6部	ハイロード ジヤスパー エストリーゼ	日光市小林	植 木 靖 典
	7部	ミスリージエント ゴールド ビューティー コラ	那須塩原市関谷	和田 泰
	8部	リージエント ミス ロザベル	那須塩原市関谷	和田 泰
	9部	ハーネスファーム ロスチーフ リリス	那須塩原市臺沼	高 塩 浩 典
	10部	パインツリー クリスマス サード ロイ ET	那須烏山市小倉	P-THREE

3月17日、那須塩原市「塩原堆肥センター」において、栃木県ホルスタイン改良同志会主催による、第43回栃木県B&Wショウが開催されました。

同志会として堆肥センターを会

場に使用するということは初めての試みでありましたが、関係者が一丸となり、見事今回のショウを成功させました。

入賞結果は一覧のとおりです。

第43回栃木県ブラックアンドホワイトショウ開催!



東西南北

那須高原支所

第11回那須高原支所ボウリング大会

2月8日、那須高原支所活動推進協議会（臼井勉会長）主催による第11回ボウリング大会が、黒磯ボウル（那須塩原市）及び王冠ボウル（大田原市）の2会場で180名の参加のもと盛大に開催されました。当日は、組合員とその家族・従業員などが参加し、和やかな雰囲気の中で2ゲームが行われ、各会場・各レーンともに楽しいひと時を過ごすことができました。

競技終了後は、榊原会館に会場を移し懇親会が行われ、近況等情報交換しながらも、各テーブルか



ら笑い声が絶えない懇親会となりました。

また表彰式では、ボウリング場ごとに団体賞表彰と個人賞表彰が行われ、関係団体から協賛して頂いた沢山の賞品が受賞者に贈られました。参加された方は明日への活力に繋がる楽しい一日になったことと思います。

なお、各部の優勝は次の通りです。

●黒磯ボウル

団体の部 高林支部

個人の部

男性 人見 孝（青木）

女性 人見 礼子（高林）

●王冠ボウル

団体の部 西那須野支部

個人の部

男性 内田 卓（西那須野）

女性 後藤 友子（西那須野）

宇都宮支所

バーンミーティング開催

1月16日、鷹箸牧場にて職員を対象としたバーンミーティングを実施いたしました。講師はきくち酪農コンサルティングの菊地実先生で、先生はDairy Japan等の専門誌にも多くの原稿を掲載されています。

今回、最も印象深い話題は「ルーメンにも水の要求量がある」ということでした。通常、水といえど、搾乳牛は1日に100ℓ以上

の飲水量は「乳牛としての生体を維持するのに必要な量」と「ルーメンにとって必要な量」の2つに分ける事ができるそうです。水は生命にとって不可欠な物質であり、ルーメン微生物にとっても例外ではなく、代謝や増殖に必要になります。また、発酵に際してはデンプンを加水分解し糖類にするのにも水が必要となります。

つまりは、水の2つの要求量を満たしてやることは、よりルーメンでの分解・発酵を促進し、乾物摂取量の増加を促し、ひいては乳量の増加や、乳牛の健康の手助けとなると言う事です。牛は「喰む」から「飲む」のではなく、「飲む」から「喰む」ということです。

皆様もご自身の牧場の水場について、今一度ご確認されてはどうでしょうか。なお、今回は水の要求量についてのみ触れましたが、他の内容も盛り沢山の勉強会となりました。勉強会の内容について興味のある方は、お気軽に支所までお問い合わせください。

県南支所

女性会二支部交流会開催

フルートとピアノによる演奏会

2月26日、毎年恒例となっている女性会芳賀支部（増山英子支部長）と河内南部・下都賀支部（海老原治美支部長）の合同交流会が、真岡市のグランドホテル静風にお

いて開催されました。

今年度は、市貝町在住の平野沙紀氏、茨城県在住の藤田祐実氏に演奏を依頼し、フルートとピアノの演奏会を行いました。お二人とも大学の音楽過程を卒業され、現在は指導者として専門楽器を教えているほか、数多くの演奏活動を行っています。

はじめに増山支部長より、「今日の演奏で心に潤いを与えて、日々の糧にしてもらいたい」との挨拶があり、演奏会開始となりました。演奏が始まると、参加者は一様にお二人の演奏に聴き入り、会場内は自然と夢の世界へと入っていました。

「愛のあいさつ」にはじまり、「アヴェ・マリア」「美女と野獣」等聞き覚えのある有名な曲ばかり11曲を熱演していただき、あっという間の1時間となりました。今回は演奏会を企画したところ、両支部合わせて42名の参加があり、盛会に熱気のこもった交流会となりました。

演奏会終了後には、少し遅い新年会を兼ねた懇親会が行われ、なかなか一同に会することがない2支部の懇親会が深められ、大変有意義な交流会となったことと思います。



部課だより

生乳販売課

2月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較(閏年修正)し102.4%(1万6579t)、累計の受入乳量は104.8%(19万2299t)となり、16ヵ月連続し前年を上回る状況です。出荷者数は、前年同月より11戸減の517戸(内、学校・公共団体4戸)でした。また、乳質につきましては、脂肪率・無脂固形が前年を若干下回る状況、細胞数は前年より改善し推移しております。尚、同期の累計不合格件数は1141件となり、前年(1333件)を大きく下回りました。

関東生乳販連内の2月用途別販売数量は、加工率が12.79%と前年を上回る状況で推移したため、飲用向け販売数量は前年比98%と落ち込みました。また、総受託乳量も前年比99.6%と前年を下回る状況でした。しかし、累計の受託乳量は104万9025t(前年比101.4%)となっており、最終的には前年を上回る実績が予想されます。

尚、累計の飲用向け販売量が前年比99.0%と前年を下回る状況

関東生乳販連用途別販売数量

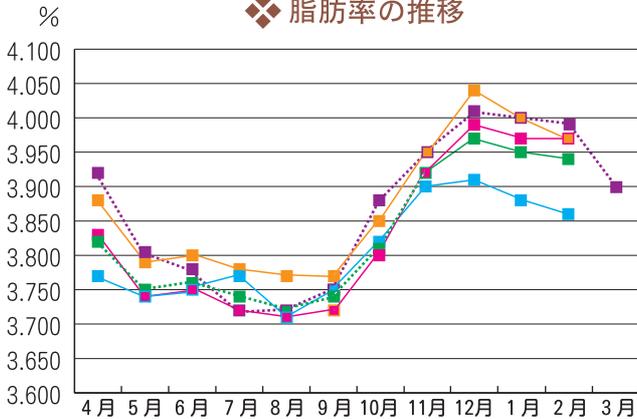
(単位: kg・%)

用途	2月実績	前年実績	前年比	(閏年修正)	4-2月実績	前年実績	前年比	(閏年修正)
飲用牛乳向け	64,790,304	68,469,059	94.6	98.0	763,460,700	773,752,819	98.7	99.0
(うち学校向け)	12,475,415	13,814,825	90.3	93.5	119,029,732	118,952,282	100.1	100.4
はっ酵乳向け	11,945,681	13,728,503	87.0	90.1	154,296,492	158,216,045	97.5	97.8
特定乳製品向け(加工)	11,572,445	9,419,746	122.9	127.1	104,334,321	78,646,495	132.7	133.1
(うち委託加工向け)	491,967		-		1,243,449		-	-
生クリーム向け	2,108,699	2,388,326	88.3	91.4	26,198,483	25,958,422	100.9	101.2
チーズ向け	42,573	59,076	72.1	74.6	735,950	723,014	101.8	102.1
総受託乳量	90,459,702	94,064,710	96.2	99.6	1,049,025,946	1,037,296,795	101.1	101.4
加工比率	12.79	10.01	-		9.95	7.58	-	-

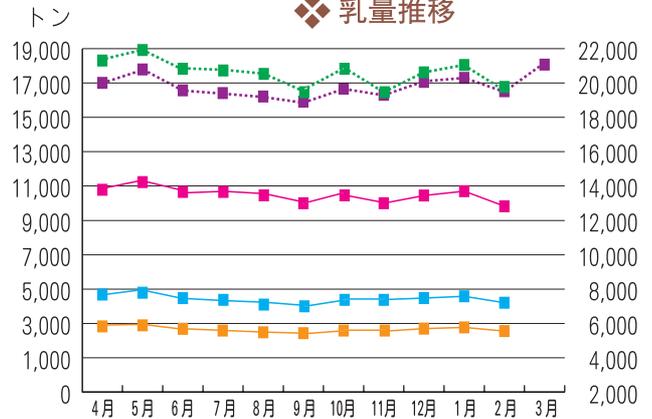
ではありますが、前年比2.3%のマイナスであった近年と比較すると、一定の下げ止まりが見えます。今後とも継続的な牛乳消費拡大に向けた取り組みが重要となります。

組合の平成24年度の生産・乳質の推移、関東の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

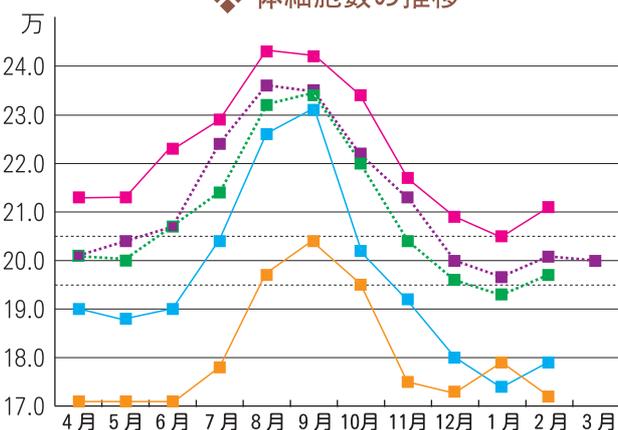
脂肪率の推移



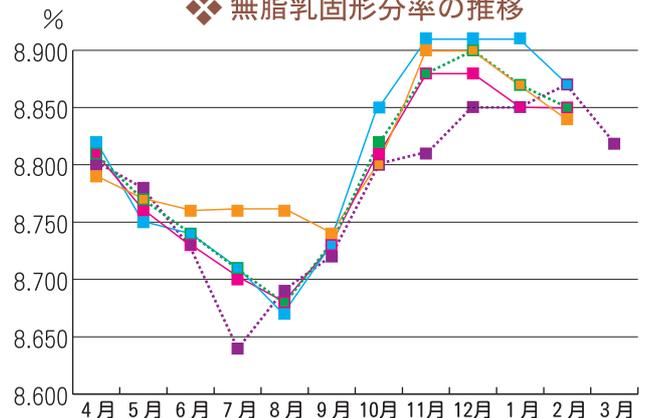
乳量推移



体細胞数の推移



無脂乳固形分率の推移



業務部

栃木県酪農発表大会

栃木県酪農協会主催による第38回栃木県酪農発表大会が、2月7日宇都宮市「コンセーレ」において、県内より約130名の酪友や関係機関の皆様の参加を頂き開催されました。

県内各酪農協より推薦された、酪農経営発表者、酪農意見体験発表者から、自身の経営の成果、酪農への思いや日々の取組み、地域での仲間との活動状況等の素晴らしい発表がありました。

なお、今回は新たな試みとして自由発表部門が設けられ、県内学校長等より推薦された高校生、大学生による酪農に関する意見、自分の体験等の発表もありました。



渡邊喜夫氏 細島和典氏 山口菜並さん 福田愛さん 矢野健太郎さん

皆さんに共通する事は、とにかく「牛が大好き」で酪農を通じ自分が成長した喜び、そして将来は地域で酪農経営をしたいとの思いでした。酪友の方々もとても幸せな気持ちで発表を聞いていた事と思います。

閉会時には、この酪農情勢を乗り切ろうと拳を突き上げ「頑張ろうコール」を会場全員で声高らかに言い、それぞれが明日からの酪農経営の励みとなる発表会になりました。

第38回 栃木県酪農発表者

酪農経営発表部門

渡邊 喜夫（鹿沼市）関東申信越大会出場

意見体験発表部門

細島 和典（真岡市）関東申信越大会出場

自由発表部門

山口 菜並（栃木県立那須拓陽高等学校）

福田 愛（栃木県立鹿沼南高等学校）

矢野健太郎（栃木県農業大学校）

平成24年度購買推進女性研修会

盛会裏に開催

2月22・23日の2日間、総勢175名の参加のもと大洗ホテルに於いて、今年で8回目となる購買推進女性研修会が開催されました。

今回の研修会は、食と健康「今伝えたい食ものがたり」と題してクッキングスクールネット主宰根本悦子先生よりご講義を頂きました。



根本悦子氏

た。根本先生は、料理教室を運営する傍ら、「食育」をとらえ

て講演活動をしており、「日本古来の食文化」が失われることへの危機感をもちはじめ、以来、食文化の歴史や伝統、食べものと身体との関係をテーマに研究を進め、食に対する独自の考え方を開拓している方です。

講義は、食と健康について牛乳の話も交えて大変ためになる講義をしていただきました。

夜の懇親会では、菊池組合長とメーカー代表の方々に挨拶を頂き、坂主副組合長の音頭により、「那須だいきすき牛乳」で声高らかに乾杯して開宴致しました。お楽しみ抽選会でますます盛り上がりました。最後に伊藤委員長からの締め挨拶により盛会裏に終わりました。ご多忙の中、この研修会に多数の参加を頂き誠に有り難うございました。組合としても生産資材の供給については組合員の皆様に満足して頂けるようなものをより安く提供できるように力を入れていく所存でございますので、今後とも組合購買事業の利用推進にご支援ご協力くださるようお願いいたします。

平成25年度以降の配合飼料安定基金 生産者積立金単価の改定について

穀物相場が高止まりの様相を呈している中、飼料穀物であるトウモロコシの輸入価格は高騰が続いている状況にあります。

昭和43年に設立された配合飼料価格安定基金は畜産経営の安定に寄与する制度としての役割を担ってきました。

今後も安定基金制度の健全な運営を図るためには、その財源盤と補てん能力の長期的充実を図っていく必要があります。

生産者は現在、トン当たり500円の積立を行っておりますが、配合飼料の価格上昇に伴う価格差補てんが続き、通常補てん金の財源が平成20年同様に平成24年も不足（借入）している状況にあります。このようなことから基金の財源を安定的に確保するため、次のとおり生産者積立金単価が改定となります。

- ・全国畜産配合飼料価格安定基金（全酪連） 生産者積立金単価 600円/t

- ・全日本配合飼料価格畜産基金（明治・雪印） 生産者積立金単価 650円/t



性判別精液を利用した「後継牛安定確保対策事業」について

1 下半期分取り纏めについて

下半期の取り纏めを4月末に行います。平成24年度中に授精されました事業対象判別精液につきましてご報告願います。

尚、上半期に授精を行い未報告の分についても受け付けますので、併せてよろしくお願いいたします。提出書類につきましては次のとおりです、再度ご確認願います。

提出書類

①報告用紙

※お手元がない場合には所轄支所まで

②授精伝票の写し

※預託牛に関しては添付しなくて可 ※自家受精の方も組合備えの伝票を利用し添付

③使用済ストロー

※預託牛に関しては添付しなくて可

④授精した月日が分かる授精報告書 ※預託牛のみ

2 対象種雄牛の追加について

新規牛の公表と現場のニーズを踏まえた上で、表1のとおり種雄牛を追加させて頂きます。詳細は別送にてご案内させて頂きます。

3 上半期取り纏め結果(速報)

前回提出して頂いたものについての集計結果は表2のとおりです。受胎率は、未経産牛42・2% 経産牛36・0% 全体で39・3%となっております。

経産牛への授精がやや多めといった印象で、個別に見ますとトレジャー、ミラクルJ、マリタイムの成績が優秀です。しかし妊娠無の関係もありサンプル数が少なく、数値にばらつきがあります。また、夏場も含んだ期間であることから、目安としてお考え下さい。

サンプル数が集まれば注入部位毎の受胎率も割り出せるかと思えます。現在妊娠士の牛についても追跡調査を行って参りたいと考えていますのでご協力の程よろしくお願いたします。

表1 後継牛安定確保対策事業(追加牛)

	略号	名号	価格
ジェネティックス北海道	JP3H53998	スプラツシユ	6,090
十勝家畜人工授精所	JP4H54771	ソルデユ	6,300
家畜改良事業団	JP5H54423	ジャムナ	7,140
アルタジャパン	511H10017	R2	10,290
WWS	507H10506	アットウッド	10,290

表2 上半期集計結果(速報)

	全体						経産牛						未経産牛					
	使用状況		妊娠鑑定				使用状況		妊娠鑑定				使用状況		妊娠鑑定			
	報告数	割合	+	-	不明	受胎率	報告数	割合	+	-	不明	受胎率	報告数	割合	+	-	不明	受胎率
JP5H53414X トレジャー	25	5.4%	8	7	10	53.3%	14	5.3%	5	6	3	45.5%	11	5.4%	3	1	7	75.0%
JP5H53562X ランカスター	33	7.1%	11	19	3	36.7%	8	3.0%	2	5	1	28.6%	25	12.4%	9	14	2	39.1%
JP5H54028X トップガン	19	4.1%	5	10	4	33.3%	10	3.8%	2	4	4	33.3%	9	4.5%	3	6	0	33.3%
JP3H53655X ジアンビ	120	25.7%	26	41	53	38.8%	91	34.3%	17	31	43	35.4%	29	14.4%	9	10	10	47.4%
JP3H53999X スパークリング	15	3.2%	3	7	5	30.0%	5	1.9%	1	2	2	33.3%	10	5.0%	2	5	3	28.6%
JP4H53508X ミラクルJ	52	11.1%	15	11	26	57.7%	22	8.3%	0	1	21	0.0%	30	14.9%	15	10	5	60.0%
JP4H53351X モンブラン	21	4.5%	3	10	8	23.1%	12	4.5%	1	4	7	20.0%	9	4.5%	2	6	1	25.0%
501H8784 フレディー	49	10.5%	7	17	25	29.2%	19	7.2%	3	9	7	25.0%	30	14.9%	4	8	18	33.3%
529H13536 プレンティス	30	6.4%	6	15	9	28.6%	18	6.8%	3	7	8	30.0%	12	5.9%	3	8	1	27.3%
529H13568 ミラード	30	6.4%	5	15	10	25.0%	12	4.5%	1	3	8	25.0%	18	8.9%	4	12	2	25.0%
777H2366 マイティー P	31	6.6%	2	4	25	33.3%	27	10.2%	2	2	23	50.0%	4	2.0%	0	2	2	0.0%
777H5678 マリタイム	42	9.0%	16	9	17	64.0%	27	10.2%	8	6	13	57.1%	15	7.4%	8	3	4	72.7%
計	467	100%	107	165	195	39.3%	265	100.0%	45	80	140	36.0%	202	100.0%	62	85	55	42.2%



乳牛飼養動態調査

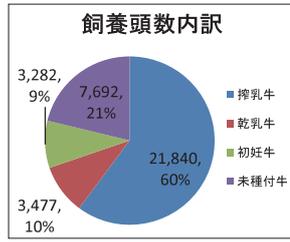
1月1日現在での調査結果について、以下のとおり報告します。

1 出荷者戸数について

平成24年1月調査（以下前年調査）と比較すると新規出荷者が2名あり、酪農中止は11戸（団体公共を除く）に止まり減少幅は縮小した。廃業の理由は、高齢や後継者がいない4戸、経営転換や他産業への転業3戸、経営不振2戸、死亡・病気療養その他2戸であった。出荷者は前年比1・7%減の515戸となった。なお、酪農中止者11名の廃業時の飼養頭数は、105頭であった。

2 飼養頭数について

団体を除く総飼養頭数は、前年調査より612頭多く前年比101・7%の3万6291頭と前年7月と比べても増加傾向であった。

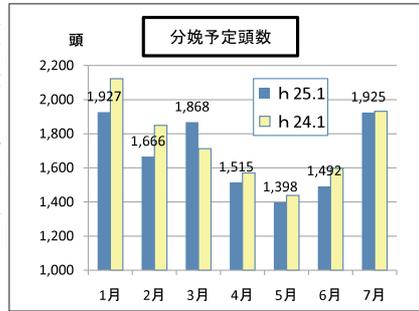


内訳は、経産牛は前年1月比2・3%増加し、2万5317頭、自家育成牛は前年比1・7%減少し8776頭、外部預託牛は前年比9・2%増の2198頭である。また、1戸平均の飼養頭数は2・4頭増加し、70・5頭で前年に引き続き増加している。なお、経産牛

に占める搾乳牛の比率は0・6%増加し2万1840頭、乾乳牛は2%減の3477頭であった。育成牛（自家・外部預託含む）の保有率は、0・5%減少し30・2%の1万974頭となった。

3 分娩頭数について

月別分娩頭数は3月は前年を上回るが他の6カ月は前年を下回る状況である。7月までの分娩予定頭数は、前年調査に比べ434頭減少し1万1791頭となっている。特に、年初の1月の2月の分娩頭数が前年より10%程度の減少であり減少幅が大きくなっているが4月以降の減少幅は縮小傾向にある。平成25年度上半期については、昨年並みの出荷量の確保は厳しい状況にあると推測される。



平成24年7月から12月の品種別分娩実績は、ホル種55・1%と前年の51・6%を上回り、交雑種は39・2%と前年の42・5%から3・3%減少し、和牛ETについては5・6%と前年の5・9%から0・3%減となった。

乳牛飼養動態調査表

(平成25年1月1日現在)

支所別	調査年月	出荷者数	飼養頭数							1戸平均飼養頭数	繁殖和牛経産牛頭数	月別分娩予定頭数 (H24.1は実績頭数)								
			経産牛			自家育成牛		外部預託牛				合計	H25.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計
			搾乳	乾乳	小計	初妊	未種付	初妊牛	未種付牛											
那須高所支	H25.1 (構成比)	323	13,116	2,038	15,154	1,669	3,826	459	1,036	22,144	68.6	631	1,156	1,000	1,081	918	906	940	1,161	7,162
	(構成比)		59.2%	9.2%	68.4%	7.5%	17.3%	2.1%	4.7%	100.0%		16.1%	14.0%	15.1%	12.8%	12.7%	13.1%	16.2%	100.0%	
	増減	▲6	384	▲16	368	▲194	41	▲29	154	340	2.3	62	▲68	▲100	65	▲98	▲26	▲107	21	▲313
宇都宮支	H25.1 (構成比)	92	3,173	475	3,648	510	1,184	77	273	5,692	61.9	130	289	224	282	217	155	204	277	1,648
	(構成比)		55.7%	8.3%	64.1%	9.0%	20.8%	1.4%	4.8%	100.0%		17.5%	13.6%	17.1%	13.2%	9.4%	12.4%	16.8%	100.0%	
	増減	0	57	0	57	▲42	50	▲12	40	93	1.0	▲14	▲6	▲61	48	40	▲24	▲14	1	▲16
南所支	H25.1 (構成比)	100	5,551	964	6,515	467	1,120	100	253	8,455	84.6	26	482	442	505	380	337	348	487	2,981
	(構成比)		65.7%	11.4%	77.1%	5.5%	13.2%	1.2%	3.0%	100.0%		16.2%	14.8%	16.9%	12.7%	11.3%	11.7%	16.3%	100.0%	
	増減	▲3	207	▲53	154	▲35	28	▲10	42	179	4.2	2	▲122	▲23	42	2	10	15	▲29	▲105
小計	H25.1 (構成比)	515	21,840	3,477	25,317	2,646	6,130	636	1,562	36,291	70.5	787	1,927	1,666	1,868	1,515	1,398	1,492	1,925	11,791
	(構成比)		60.2%	9.6%	69.8%	7.3%	16.9%	1.8%	4.3%	100.0%		16.3%	14.1%	15.8%	12.8%	11.9%	12.7%	16.3%	100.0%	
	増減	▲9	648	▲69	579	▲271	119	▲51	236	612	2.4	50	▲196	▲184	155	▲56	▲40	▲106	▲7	▲434
*1 団体	H25.1 (構成比)	4	72	48	120	25	57	0	0	202	50.5	26	5	8	6	5	3	9	7	43
	(構成比)		35.6%	23.8%	59.4%	12.4%	28.2%	0.0%	0.0%	100.0%		11.6%	18.6%	14.0%	11.6%	7.0%	20.9%	16.3%	100.0%	
	増減	0	5	▲7	▲2	7	14	0	0	19	4.8	4	▲2	1	0	3	▲11	2	7	0
合計	H25.1 (構成比)	519	21,912	3,525	25,437	2,671	6,187	636	1,562	36,493	70.3	813	1,932	1,674	1,874	1,520	1,401	1,501	1,932	11,834
	(構成比)		60.0%	10.3%	69.7%	7.3%	17.0%	1.7%	4.3%	100.0%		16.3%	14.1%	15.8%	12.8%	11.8%	12.7%	16.3%	100.0%	
	増減	▲9	653	▲76	577	▲264	133	▲51	236	631	2.4	54	▲198	▲183	155	▲53	▲51	▲104	0	▲434

*1 H24.1、H25.1の団体件数は、高校2校、大学1校、栃木県畜産酪農研究センター1カ所

国税庁からのお知らせ

平成26年1月から、記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されます。個人の白色申告者のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得又は山林所得の金額の合計額が300万円を超える方には、保存が、平成26年1月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全の方(所得税の申告の必要がない方を含みます)について必要となりません。記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は、国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp>)に掲載されていますので、ご覧ください。

理事会だより

1月度理事会(1月31日)

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合員加入について
- (三) 組合員退任について
- (四) 組合員貸付について
- (五) 東京電力原発電事故農畜産物損害賠償について
- (六) 生乳生産管理チェックシート記入状況について
- (七) 酪農ヘルパーに関するアンケート結果について
- (八) 酪農ヘルパーに関するアンケート結果について
- (九) 酪農ヘルパーに関するアンケート結果について
- (一〇) 協議事項
- (一一) 協議事項
- (一二) 協議事項
- (一三) 協議事項
- (一四) 協議事項
- (一五) 協議事項
- (一六) 協議事項
- (一七) 協議事項
- (一八) 協議事項
- (一九) 協議事項
- (二〇) 協議事項
- (二一) 協議事項
- (二二) 協議事項
- (二三) 協議事項
- (二四) 協議事項
- (二五) 協議事項
- (二六) 協議事項
- (二七) 協議事項
- (二八) 協議事項
- (二九) 協議事項
- (三十) 協議事項

2月度理事会(3月1日)

- (一) 組合員加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合員貸付について
- (四) 組合員退任について
- (五) 東京電力原発電事故農畜産物損害賠償について
- (六) 役員報酬等審議会答申について
- (七) 組合員向け小規模動産担保融資(酪農とちぎABL)について
- (八) 協議事項
- (九) 協議事項
- (一〇) 協議事項
- (一一) 協議事項
- (一二) 協議事項
- (一三) 協議事項
- (一四) 協議事項
- (一五) 協議事項
- (一六) 協議事項
- (一七) 協議事項
- (一八) 協議事項
- (一九) 協議事項
- (二〇) 協議事項
- (二一) 協議事項
- (二二) 協議事項
- (二三) 協議事項
- (二四) 協議事項
- (二五) 協議事項
- (二六) 協議事項
- (二七) 協議事項
- (二八) 協議事項
- (二九) 協議事項
- (三十) 協議事項

3月度理事会(3月29日)

- (一) 組合員加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合員貸付について
- (四) 組合員退任について
- (五) 東京電力原発電事故農畜産物損害賠償について
- (六) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (七) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (八) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (九) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一〇) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一一) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一二) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一三) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一四) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一五) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一六) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一七) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一八) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (一九) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二〇) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二一) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二二) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二三) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二四) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二五) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二六) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二七) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二八) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (二九) 酪農生産基盤強化対策の実施について
- (三十) 酪農生産基盤強化対策の実施について

協議事項

- (一) 2月度事業実績について
- (二) 平成25年度事業運営に関する理事会付議事項について
- (三) 定款、定款付属書役員選任規程、規約の一部変更について
- (四) 平成25年度生乳出荷奨励実施要領について
- (五) 平成25年度乳質共励会実施規程について
- (六) 平成25年度生乳計画生産について
- (七) 平成25年度抛出金等の控除について
- (八) 生乳乳質保全規程細則の一部変更について
- (九) 平成25年度事業計画及び収支計画(案)について
- (十) 平成25年度乳代手数料及び事業賦課金の設定(暫定)について
- (十一) 酪農とちぎアグリサポートとの各種契約の締結について

お知らせ

職員人事

定年退職(3月31日付)

- 総務部長 長山 隆芳
- 業務部長 益子 一雄
- 県南支所長 齋藤 修一
- 販売部付関 東生乳販連 大根田 正志
- 業務部指導企画課係長 山菅 哲夫
- 業務部購買企画課係長 小堀 道子
- 那須高原支所業務推進課係長 村山 道子
- 谷口 寿々子

3月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位：千円(税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	3月7日	593	459	77.4%	550	61	42	668
南北海道	3月8日	114	101	88.6%	518	3	2	616
豊富	3月15日	438	270	61.6%	509	2	1	678
釧路	3月20日	313	213	68.1%	533	3	3	589
根室	3月21日	560	338	60.4%	527	28	21	640
十勝	3月22日	518	460	88.8%	579	54	53	715
北見	3月23日	443	318	71.8%	521	6	3	687
合計		2,979	2,159	72.5%	540	157	125	681
前月		3,401	2,391	70.3%	537	162	145	683
前年同月		2,987	2,370	79.3%	550	132	115	661

4月の初妊牛動向は6月～7月腹中心となります。府県からの購買については若干落ち着くと思われそうですが、昨夏の暑さの影響で資源は極端に少ないため、価格については横這いで推移すると思われそうです。

H25.3月度 県内家畜市場成績 (単位：円(税込))

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
西那須野(3/10)	ホルス雄	123	122	63	63,000	3,150	45,065	2,509
	F1雄	95	95	58	191,100	50,400	139,816	▲1,904
	F1雌	90	90	55	121,800	32,550	87,383	▲2,702
館林(3/7)	ホルス雄	2	2	75	39,900	35,700	37,800	5,775
	F1雄	16	16	96	211,050	92,400	175,022	▲21,591
	F1雌	12	12	88	130,200	113,400	123,025	3,421

3月に入りホルス雄相場については県外からの購買者が増えたことにより、強気配の状態になっております。今後も堅調な状態で推移するものと思われそうです。

